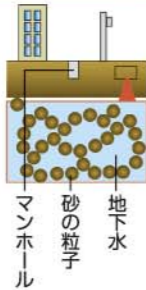


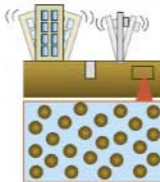
久喜市地震ハザードマップ 液状化可能性マップ

液状化とは？

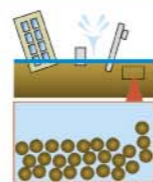
地下水を含む地盤が強い揺れで泥水のような現象をいい、地盤上の建物を傾かせたり沈めさせたりします。砂質土層で発生しやすい現象で、1995年の兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)では、ポートアイランド等が被害を受けて注目されました。



【地震前】
地盤のすき間に水をたくさん含みながらも砂の粒子同士が接触し建築物を支えています。



【地震中】
砂の粒子がバラバラになり、水に浮いた状態になります。



【地震後】
バラバラになった砂の粒子が沈み、地面には水が出てきたり、地面の裂け目から砂まじりの泥水が噴き出したりします。このようになるとその地盤は建築物を支えることができなくなり、建築物は土の中に沈み込んだり倒壊したりしてしまいます。

久喜市の液状化対策

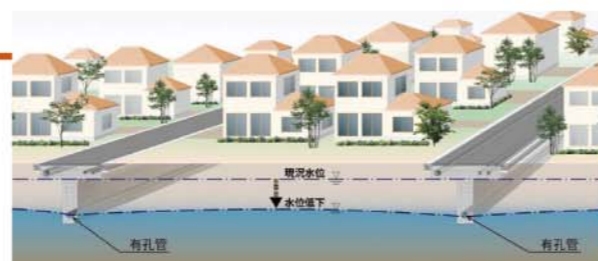
南栗橋地区は、東日本大震災により、住宅の傾きなどの被害のほか道路など公共施設にも甚大な被害を受けたことから、宅地と道路など公共施設の一体的な液状化対策を行っています。

市では、久喜市液状化対策検討委員会(※1)において、南栗橋地区(一部を除く)で有効な液状化対策を検討し、住宅が建ち並んだ状態において対策できる方法として、「地下水位低下工法(※2)」が最も適していることが判っています。

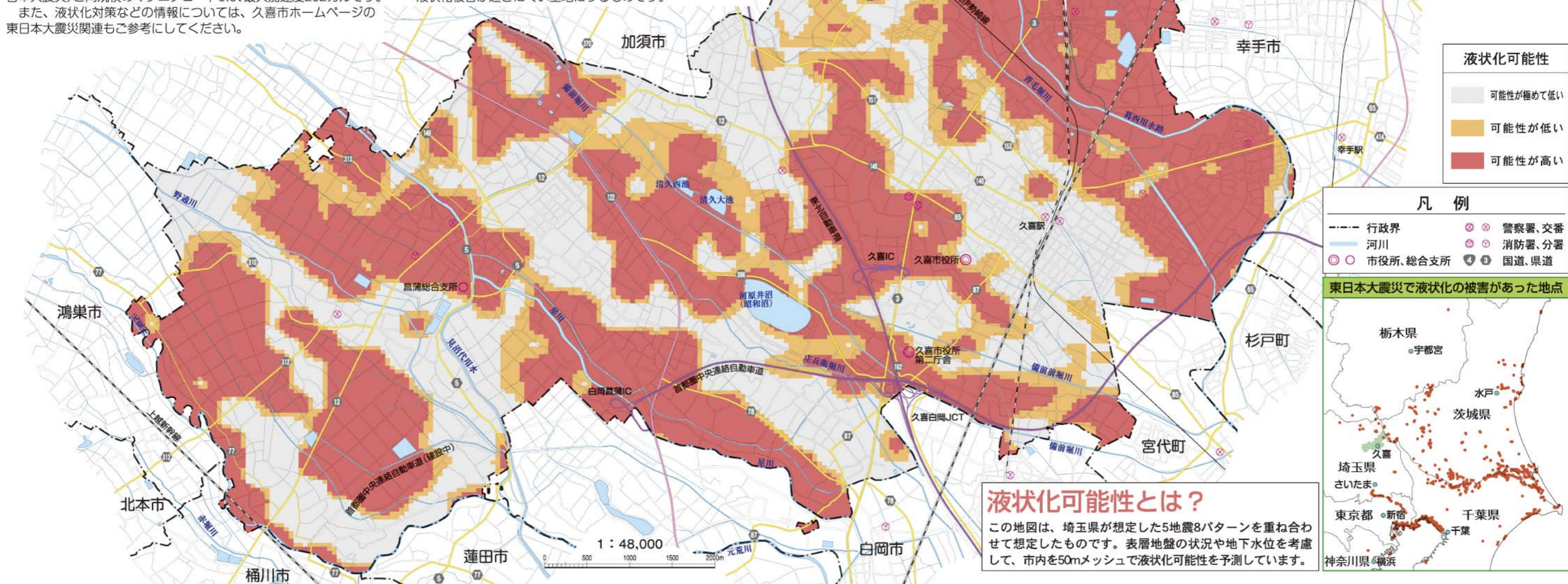
この工法は、道路内に孔管を埋設し地下水位を低下させるものであり、平成27年度に工事に着手する予定です。この対策を行うことにより、液状化による被害を抑制することができます。

なお、工法検討に用いた想定地震動は、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)と同規模のマグニチュード9.0、最大加速度202ガルです。

また、液状化対策などの情報については、久喜市ホームページの東日本大震災関連もご参考してください。



※1 久喜市液状化対策検討委員会とは、建築や土木などの学識経験者6名で構成された委員会。
※2 地下水位低下工法とは、液状化の発生原因の一つである地下水位を低下させ、液状化しにくい層を増やすことで、液状化被害が起きにくい土地にするものです。



凡例

---	行政界	⊗ ⊗	警察署、交番
---	河川	⊗ ⊗	消防署、分署
○ ○	市役所、総合支所	④ ③	国道、県道



液状化可能性とは？
この地図は、埼玉県が想定した5地震8パターンを重ね合わせて想定したものです。表層地盤の状況や地下水位を考慮して、市内を50mメッシュで液状化可能性を予測しています。